

科目名	データベースプログラミングA
科目名(英訳)	Database Programming A
科目ナンバー	HM313C05
担当者 (非)は非常勤講師	柊 和佑
単位数	1
開講学年	2年
開講セメスター	秋期毎週
履修順序・履修情報	
担当者及び時間割	【秋学期】 柊 和佑: 月5-6
カリキュラムの中での位置付け ／DP(ディプロマ・ポリシー)	学科専門教育科目の中のメディア情報社会実践科目のうちのキュレーション・スキルズ科目として位置づけられる。キュレーション・スキルズ科目は、メディア情報の収集・蓄積・提供積にかかわるスキルを身につけるための科目群である。本講義は、司書課程の「図書館に関する科目」のうちの「図書館情報資源に関する科目」に属する必修科目でもあるため、司書資格を取得するために必要な科目である。 【ディプロマ・ポリシー(DP)】2024年度入学生以降対象 ①:○ ②:○ ④:◎
身につく基礎力 / 身につく汎用力	／ 専門的知識・技能 自立心 実行力

授業の主旨 (概要)	多様な情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語彙の適用、メタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。 具体的には、図書館データ作成の実際、主題分析と分類作業の実際、主題分析と統制語彙適用の実際などについて理解し、知識を身につけることを目標とする。そのうえで、データを扱うための仕組みを学び、メタデータの設計を行う。さらに、データを格納する仕組みとしてリレーショナルデータベースをとりあげ、目標のデータをデータベースに格納し、呼び出すまでを演習形式で行う。 なお、各自のコンピュータ上にシステムを構築するため、毎回コンピュータを持参すること。なお、2020年度はプログラミング言語としてPythonを使用した。授業開始時に流行している言語を使うので注意すること。	
具体的 達成目標	書誌データ作成の実際、主題分析と分類作業の実際、主題分析と統制語彙適用の実際などについて理解し、知識を身につけるために、一学期をかけてプログラミング言語とデータベースの操作方法の基礎を学ぶ。 最終的には、以下の能力の獲得を目指す。 ・データベースを構成する技術について理解することができる ・データとアルゴリズムについて理解することができる	
授業計画	1	【内容】 情報資源組織化の意義と理論 図書館の業務について最近のニュースを用いて解説を行い、講義で扱う内容について概要を解説する 【授業外学習】
	2	【内容】 開発環境の解説 【授業外学習】
	3	【内容】 開発環境の使い方1 【授業外学習】 基礎的な画面表示課題1
	4	【内容】 開発環境の使い方2 【授業外学習】 基礎的な画面表示課題2
	5	【内容】 プログラミング言語演習1 【授業外学習】 データ処理課題1
	6	【内容】 プログラミング言語演習2 【授業外学習】 データ処理課題2

25 データベースプログラミング A

	7	【内容】	プログラミング言語演習3
		【授業外学習】	データ処理課題3
	8	【内容】	リレーショナルデータベース1 書誌データを格納する仕組み
		【授業外学習】	データベース演習課題1
	9	【内容】	リレーショナルデータベース2 主キーと正規化
		【授業外学習】	データベース演習課題2
	10	【内容】	リレーショナルデータベース3 条件による検索方法
		【授業外学習】	図書館システムの設計課題1
	11	【内容】	リレーショナルデータベース4 結合テーブル(中間テーブル)の使い方
		【授業外学習】	図書館システムの設計課題2
	12	【内容】	リレーショナルデータベース5 図書館システムのデザイン
		【授業外学習】	図書館システムの設計課題3
	13	【内容】	リレーショナルデータベース6 目録のデザイン
		【授業外学習】	図書館システムの設計課題4
	14	【内容】	リレーショナルデータベース7 コンソールの基礎
		【授業外学習】	最終課題発表
	15	【内容】	リレーショナルデータベース8 リレーションを利用したシステム構築
		【授業外学習】	
授業方法	演習(各自のコンピュータを持参すること) 課題提出物に対して適宜フィードバックを行う。		
成績の 評価方法	出席及びカテゴリ毎の成果物を総合的に評価する		
成績の 評価基準	図書館を支えるデータ管理技術を自分で調べ、使いこなせるかを評価する。 達成目標の90%以上の達成でS評価、80%以上でA評価、70%以上でB評価、60%以上でC評価		
教科書			
参考文献			